

74名の卒業生の皆様、卒業おめでとうございます。

本来なら今日の京都医療科学大学卒業式・学位記授与式は、ご父兄、ご家族や多くの来賓の方々の列席のもと盛大に行われるはずでしたが、新型コロナ肺炎の影響でささやかな式典となったのは、私達にとっても残念で仕方ありません。

ご家族、保護者の方々は今日の卒業式に出席できなくても、皆様の卒業を心から喜んでいることと思います。今日の良き日を迎えることが出来たのは、皆様自身の毎日の努力はもちろんですが、これまで20年余りに渡って深い愛情を注ぎ、励ましてくださったご両親、ご家族、その他多くの人の支援があったからこそです。皆様を支えてくださった多くの人々に「感謝の気持ち」を忘れないでください。

今、世界は新型コロナウイルスの脅威にさらされています。コロナ肺炎の診断には胸部X線写真とCT検査が欠かせません。毎日報道される感染者の一人一人に診療放射線技師の撮影する胸部X線写真とCT検査が大きな役割を果たしています。

皆様の先輩はそのような過酷な医療現場の最前線で働いているのです。自分自身の健康管理をしっかりとし、目の前の患者を救う大きな力となれるよう日々努力を続けて下さい。

皆様は診療放射線技師の資格を持ったとはいえ、まだ生まれたばかりの、ひとりでは歩けない赤ちゃんです。現場ではまだ何もできません。赤ちゃんから幼稚園・小学校・中学校と何年もかけて成長していくように、これからは現場の先輩に教えてもらいながら、何年もかけて一人前の放射線技師に成長してゆきます。

コロナの影響でこの1年間余り大学の講義、病院での臨床実習も十分に出来ませんでした。たくさん不安と心配の中で過ごしたことでしょう。この間、皆様は本当によく頑張りました。ただ、病院にはコロナ以外のウイルス感染症患者や、結核などの細菌感染症等、多くの感染症患者がいます。この機会に感染症患者への対応について、多くのことを学んだことでしょう。

大学では放射線の基礎から最先端の放射線技術まで学びましたが、放射線の医学利用、放射線診断・放射線治療は急速に進歩しています。現在の最先端技術も数年後には新しい技術に置き換わります。皆様はこれから50年近く診療放射線技師として仕事することになりますが、その都度、全く新しい技術を取り入れ、それをマスターし使いこなさ

なければなりません。その際には困難な局面にいくつも出会いますが、それらを解決し乗り越えてゆかねばなりません。これからも一生勉強です。ただ、それでもなかなか思うようにならないものです。予定通り計画通りには進みません。人生は思いもよらない形で挫折するものです。

「その場、その場でベストを尽くす」

しかありません。家族・友人・先輩・教師などに相談し、助けてもらい、励ましてもらいながら、努力しベストを尽くせば必ず道は開けてきます。難しいことに挑戦し高い壁にはじかれながら、一歩ずつ最長していきます。本学では難しい問題を解決する心構え、分からないことを理解するための努力などを学んだことでしょう。

この4年間の大学生活で多くの友人、先輩・後輩が出来ました。卒業後も学友会あるいは学会・研究会等を通じて、これからも何度も顔を合わせることになります。我々は一生涯仲間です。我々はこれからも一生のつきあいとなるのです。

これからも生涯、本学の建学の精神

「品性を陶冶し、有為の技術者を養成することを以て目的とする」

を、心に留めておいてください。放射線医療の技術とともに品性、人間性を磨いてください。仕事をしていると、どのような仕事であれ、必ずその人の人間性が現れてきます。

1927年の創立以来、本学を卒業した4千人余りの先輩、学友会が本学の大きな財産ですが、「皆様が本学をさらに発展させる」という強い自覚と責任を持ってください。卒業生の皆様が4月からそれぞれの病院で、職場で、診療放射線技師として活躍され、社会に貢献する人材になられることを心より期待しています。

皆様の輝かしい新しい門出を祝福して、私の餞の言葉といたします。

令和3年3月6日

学校法人島津学園

京都医療科学大学

学長 遠藤 啓吾